



ちば高P連だより



第75号

千葉県高等学校
PTA連合会事務局
☎043(255)0687

平成二十八年八月二十五日・二十六日、千葉県千葉市幕張メッセにおいて、第66回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会が盛大に行われました。まずは開会式の様をお伝えします。

今年是全国から約一万余超ものPTA関係者が集まり、昨年の岩手大会をしのぐ盛り上がりを見せました。

会場となった幕張メッセは日本最大級のコンベンションホールです。メイン会場の幕張イベント

ホールとサブ会場の国際展示場9ホールを同時中継で結びました。各分科会会場も幕張メッセ内のホールと隣接する二つのホテルで開催されました。いずれも徒歩五分圏内で移動できるので利便性は抜群でした。

開会式は、今年四月に発生した熊本地震の犠牲者に黙とうを捧げたあと、本大会の千葉大会実行委員長である大木幸夫の大会挨拶で始まりまし。大木委員長は、

○三年前から始まった千葉大会実

行委員会のこれまでの過程

○メインテーマ「再発見！愛」についての趣旨説明

○愛の絆を確かなものにするために私たち大人ができること

○本大会の会長である全国高等学校PTA連合会会長佐野元彦氏より式辞がありました。

○人工知能やロボット技術の発達に伴う社会の大きな変容に、どのような人材を育てていけばいいか

○真の生きる力、自立した人を育てていくために私たちができること

○学校、地域が総がかりで取り組む(PTCA)の推進

○続いて、来賓の祝辞です。文部科学大臣・松野博一氏からは、

○リオオリンピッククでの日本人の活躍、努力することの大切さ、一億総活躍の時代であること

○千葉県知事・森田健作氏からは、

○自分の幼少期は、剣道ばかりやっていた勉強がでなかつたが、母親の言葉に感化され奮

立った談話
千葉県長・熊谷俊人氏からは、
○十八歳選挙権に伴う主権者教育の重要性、主体的に行動できるようにする教育の実践
といったお話をいただきました。
次に、PTA活動に多大な功績を収められた方々への表彰式です。
○優良PTA文部科学大臣表彰(三十三団体)
○全国高等学校PTA連合会会長表彰(個人の部七十八名・団体の部八十三団体・役員事務職員の部四十名)
○特別感謝状贈呈(岩手県高等学校PTA連合会と第65回全国大会岩手大会実行委員長渡辺正和氏)
今年も多くの方々が授賞されました。皆様おめでとうございます。
表彰式に続いて、千葉敬愛短期大学学長 明石要一氏に基調講演をいただきました。
「飯、金、うるさい」の現代の高校生であるが、それでも信頼し続けるこの大切さ、親として身につまされる楽しい講演でした。



アトラクション

アトラクションは、千葉県内の高校生による演奏やダンスなどのパフォーマンスです。ステージにおいて朝の受付開始後と昼食時に披露されますが、スキマ時間にはもったいないくらいの見応えがありました。参加してくれた高校の八団体をご紹介します。

○柏市立柏高等学校吹奏楽部

創立三十九年目で部員数二百六十八名の大所帯。開会式をファンキーなナンバーで盛り上げてくれました。

○習志野市立習志野高等学校吹奏楽部

こちらも二百名を超える部員数。夏の高校野球の応援は部員全員で熱く燃えています。

○千葉県立八千代高等学校 岡谷 柚奈さん

本大会テーマソング「自分色」を作詞作曲。高校生の切ない気持ちを歌にしてくれました。



八千代高等学校 岡谷柚奈さん



富里高等学校 ジャズ・オーケストラ部



習志野高等学校 吹奏楽部



柏市立柏高等学校 吹奏楽部



松戸国際高等学校 バトン部およびダンス同好会



八千代高等学校 鼓組



東金高等学校 箏曲部

○千葉県立富里高等学校ジャズ・オーケストラ部

県内唯一の本格的なジャズビッグバンド。管楽器のシンキングに圧倒されました。

○千葉県立東金高等学校箏曲部

学校のある場所は徳川家康が鷹狩に訪れた御殿跡だそうです。箏の音色は会場に涼しさ呼びました。

○千葉県立八千代高等学校鼓組

バチを振り下ろす男子の動きが迫力満点。太鼓の音は気持ちがいいです。

○千葉県立松戸国際高等学校バトン部およびダンス同好会

部員数の多さに圧倒されます。会場内をぐるっと囲み華麗なパフォーマンスを披露してくれました。(文/小池 隆)

会長挨拶

県高P連会長
千葉県実業行委員会委員長
大木 幸夫
(千葉県立八千代高等学校 P T A 副会長)



平成二十八年度千葉県高等学校 P T A 連合会会長を仰せつかりました

した大木幸夫です。二十六年度、二十七年目に続き三年目となりました。本年度もど

うぞよろしくお願い申し上げます。本年度は、平年の事業の他に、先日終了いたしました大事業がございました。

八月二十五日、二十六日に幕張メッセを会場に開催した『第66回全国高等学校 P T A 連合会大会千葉県大会』です。全国より一万人を超える参加者をお迎えし、無事に次年度開催県の静岡県に引き継げたことは、千葉県各地区、各校より多大なるご協力を賜ることができたからです。大会実行委員長として、この場をお借りして御礼申し上げます。

これから、各地区において研究発表集会が開催されることと思えます。ぜひ特色のある、又、活発な研究発表会になりますよう、ご期待申し上げます。合わせて各各地区筆頭理事様には、全国大会の疲れも癒えぬ間に、またもやご尽力いただくことになり、大変恐縮ですが、心よりお願い申し上げます。

そして、年内には千葉県高 P 研究集会、年明けには千葉県高 P 連研修会と続きます。

両事業とも、皆様の P T A 活動、子供たちの健全育成にタイムリーで、必要な情報をお届けできると自負しております。ぜひ、沢山の P T A 会員の方々にご参加いただき、各学校にお持ち帰りいただけたいと思います。

大会運営会議



千葉大会開催に先立ち、八月二十四日午後四時より幕張メッセ国際会議場国際会議室にて、大会運営会議が行われました。

千葉大会事務局長の佐々木純の進行により、全国高等学校 P T A 連合会会長佐野元彦の挨拶、千葉大会実行委員長大木幸夫の挨拶と続きました。

今大会のテーマ「再発見！愛」に基づき、活発な研究協議を行って、今後の P T A 活動の発展に生かしていこうとの趣旨説明がありました。

大会概要の説明では、千葉大会の全日程、式典関係、歓迎関係、分科会について各担当者から細かな説明と質疑応答がありました。

最後に開催二日間の最終確認を行い、大会関係者全員で千葉大会の成功を祈願しました。

(文) 千葉大会実行委員会副委員長 小池 隆

レセプション

平成二十八年八月二十四日、第 66 回全国高等学校 P T A 連合会大会千葉大会の歓迎レセプションが、ホテルニューオータニ幕張で、千葉大会の成功を願い、開催されました。



文部科学省生涯学習政策局長を始め、千葉県副知事、千葉県教育委員会委員長、千葉市副市長、千葉市教育委員会教育長など、多数の御来賓の方々をお招きし、全国高 P 連役員、大会実行委員、各県連役員、分科会における指導助言者やパネリストの方々、総勢三百

冒頭、会場の客席中央よりスポットライトに照らされ登場した市原氏は、客席の間を時には、参加者に笑みと手を振りながら、ゆつくりと歩み、壇上へと進まれ、ステージ中央の椅子に着きました。正に、女優として、心憎い演出でした。

今回、「講演」ではなく、敢えて「公演」としたところにも市原悦子という役者を演ずるといいう女優魂を感じるところでした。

自身は、千葉県千葉市のご出身

名余りの参加者となりました。

大木幸夫大会実行委員会委員長の歓迎挨拶で始まり、佐野元彦会長より挨拶、来賓の方々より御祝辞を頂戴し、鏡開きを行いました。

千葉県高等学校長協会会長、鈴木政男氏により乾杯となり、途中、アトラクションを挟み、和やかに会は進みました。全国高等学校 P T A 連合会顧問、相川順子氏の中心で目出度く終了となりました。

(文) 金子 浩章

記念公演 市原悦子氏 「私の選んだ女優の道」

第 66 回全国高等学校 P T A 連合会大会千葉大会第 2 日目、記念公演として、女優 市原悦子氏によるご公演が、幕張メッセイベントホールにて、ほぼ満席となる参加者の熱気に包まれる中、開演されました。



幼少期や大学生時代の様々な体験談、女優という職業を選び、得たことなど、いろいろなエピソードを交えながら観ている私たちを魅了していききました。

戦争の話、何気ない日常の中で自身が何かを感じた話、長い人生の歩みの中での体験談、普段は中々聞けない女優業の話、本当は怖いグリム童話等々、一つ一つ丁寧に口調で綴られ、市原悦子ワールドに引き込まれた時間でした。

お話をとおして、自分で考え、行動し、壁や障害を乗り越え、強い気落ちを持って自分の道を進むこと、そしてその先には必ず自分の信じた光景が広がっているという思いを感じました。

次世代を背負う子ども達に、そうした熱い想いを伝え、引き継いで行かねばと心新たになる公演でした。

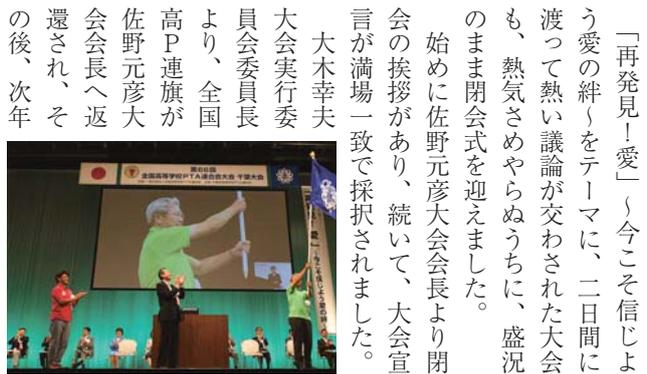
(文) 金子 浩章

冒頭、会場の客席中央よりスポットライトに照らされ登場した市原氏は、客席の間を時には、参加者に笑みと手を振りながら、ゆつくりと歩み、壇上へと進まれ、ステージ中央の椅子に着きました。正に、女優として、心憎い演出でした。

今回、「講演」ではなく、敢えて「公演」としたところにも市原悦子という役者を演ずるといいう女優魂を感じるところでした。

自身は、千葉県千葉市のご出身

閉会式



「再発見！愛」今こそ信じよう愛の絆をテーマに、二日間に渡って熱い議論が交わされた大会も、熱気さめやらぬうちに、盛況のまま閉会式を迎えました。

始めに佐野元彦大会会長より閉会の挨拶があり、続いて、大会宣言が満場一致で採択されました。

大木幸夫 大会実行委員会委員長より、全国高 P 連旗が佐野元彦大会会長へ返還され、その後、再度開催地である静岡県の、第 67 回静岡大会実行委員長、杉浦政紀氏へ無事授与、手渡されました。

次期開催地、杉浦政紀静岡大会実行委員長と実行委員の方々より、気持ちのこもった挨拶と心のこもった案内がありました。

最後に、大木幸夫千葉大会実行委員会委員長より、閉会の挨拶があり、第 66 回全国高等学校 P T A 連合会大会千葉大会も終了を迎えました。

この大会が大成功のうちに閉幕出来ました事、携わられた全ての方々に感謝申し上げます。

(文) 千葉大会実行委員会副委員長 金子 浩章

冒頭、会場の客席中央よりスポットライトに照らされ登場した市原氏は、客席の間を時には、参加者に笑みと手を振りながら、ゆつくりと歩み、壇上へと進まれ、ステージ中央の椅子に着きました。正に、女優として、心憎い演出でした。

今回、「講演」ではなく、敢えて「公演」としたところにも市原悦子という役者を演ずるといいう女優魂を感じるところでした。

自身は、千葉県千葉市のご出身

全国高 P 連研究発表

千葉県立柏高等学校 P T A 会長
山口 治隆

今回の発表は、株式会社リクルートマーケティングパートナーズリクルート進学総研所長小林浩様を講師にお迎えし、第一部の基調講演では「進路選択と親子のコミュニケーション・大学入試者選抜の改革の動向」についてお話しいただきました。第二部ではパネリストとして全国高等学校長協会会長の宮本久也様、一般社団法人全国 P T A 連合会会長佐野元彦様、千葉県立柏高等学校前 P T A 会長鈴木裕枝様が登壇され、小林様の進行で活発な対談が行われました。

第一部で印象深かった点は、高大連携改革を進めることでこれまでの①十分な知識と技能だけではなく、②思考力・判断力・表現力、③主体的に多様な人々と協働して学ぶ態度が重要になることでした。また、幾つか重要なキーワードがありました。子供たちに必要な能力は「主体性」であり生活全般では「経験価値の積み重ね」です。第二部のテーマは、「親子のコミュニケーション」と子供の自立」です。先ず、宮本様からは「社会の変化に合わせてどのように子供を育てていくか、潜在能力が高いのうまく光を当て切れていない。」と、現場を預かる当事者として

てのお話しがありました。

親の立場

としては佐野様より「息子には自分で決められない所が見られるが、今時の子供たちの特徴ではないか。」鈴木様から「母親は愛情が深い分、過干渉になりやすい。」との発言もありました。

小林様が親子のコミュニケーションツールとしてスマホの話題を提示すると、親子で親密に連絡を取れるメリットがある反面「隙間時間を奪い、結果として学力が低下」、「会話力の低下」があると指摘もありました。

子供の自立については、「進路の選択や、選挙の投票を通して促して行きたい。」との意見が出ましたが、宮本様より「親が先ず選挙に行つて、社会との関わりの手本を子供に示す必要がある。」と呼びかけもありました。

会場との質疑応答では、高卒離職者が高まっている問題や、学校と地域連携には防災や町おこしが有効との好事例紹介もあり、議論の広がりがあった研究発表でした。なおお調査詳細については当日配布の「全国高 P 連進路対策委員会研究発表資料」をご確認ください。



第一分科会報告

千葉県立成東高等学校 P T A 副会長
川島 正博

第一分科会は「学校教育と P T A」を再発見！愛・グローバル化に対応した資質・能力を育むくをテーマに幕張メッセ国際展示場 9 ホールにおいて開催されました。

開会の言葉、挨拶に続き、北海道恵庭北高校の坂本覚 P T A 会長より「小さな活動が大きな支援に」、東京都立富士高校の砂金達父母と先生の会前会長より「自ら考え自らチャレンジできる力」、京都市立西京高校の村上久明 P T A 前会長より「P T A は生徒とともに」、岡山県立井原高校の岡本健博 P T A 会長より「地域で織り成すふれ愛まつり」の発表・提案が行われました。

社会のグローバル化に向け、それぞれの学校・地域の特色を生かした取り組み方で、資質・能力の育成を支援する P T A 活動が報告されました。中でも都立富士高校の「失敗談を話し、生徒に考えさせる」というキャリア講演会は、興味深かったです。

発表後、参加者から積極的な質問が寄せられ、活発な研究協議が行われました。その後、日



本大学理工学部准教授大久保尚紀様、さらく教育研究所所長小澤美代子様より、保護者・卒業生・学校・地域が一体となり、特色を生かした取組で成果を上げているとの助言をいただき、閉会しました。

第二分科会報告

千葉県立市原高等学校 P T A 会長
細 淵 一之

第二分科会は、進路指導と P T A を再発見！愛・希望進路を実現する進路指導をテーマとして、開催されました。

最初に、宮城県仙台向山高等学校山岸智子 P T A 会長より、「学校とともに歩む P T A 活動」希望進路の実現をめざして」と題して発表がありました。進路実現に向け、学校とともに積極的な活動状況が報告されました。

二校目は、栃木県立栃木高等学校宇佐美雄三 P T A 顧問より、「よい信頼関係を目指して」と題して発表がありました。進路指導と結びつけることにより、総会出席率九十%以上を達成するなど、意欲的な活動例が紹介されました。三校目は、福井県立福井農林高等学校山口由美 P T A 副会長より、「子どもと保護者の進路意識」と知識の高揚のための P T A 活動」と題して発表がありました。学校行事の豊さ、地域とのつながりの有効な実践例が示されました。最後に、高知県立高知工業高等



第三分科会報告

千葉県立佐原白楊高等学校 P T A 会長
鈴木 光 則

質疑も大変多く、また千葉大学長澤成次様、流通経済大学島影義和様、両助言者から、絶賛の評価を頂き、盛会のうちに終了することができました。

第三分科会「生徒指導と P T A」は、国際展示場 3 ホールを会場として四校からの発表と協議・指導助言という流れで行われました。

福島県立葵高校は子どもとのコミュニケーションが大事と考え、朝の挨拶運動に参加したり進路講演会を企画運営したりと保護者同士の交流も大切にしています。

静岡県立焼津水産高校の特記事項として学校と P T A が協力し、「朝食をしっかりと食べる」取り組みを行った結果、欠席等や特別指導件数に加え、何と虫歯が減少したという報告がありました。

各分科会報告

滋賀県立長

浜農業高校は「3+1ない運動（免許は取らない・乗らない・買わない・親は子どもに要求に負けない）」の取り組みや生徒を講師とした講習会等の説明の後、次回農産物販売会（11/19）へのお誘いがありました。



薬師高校「PTA活動と家庭の教育力向上に向けての取組」、金沢市立工業高校「親と子・学校との絆」、福岡県立西田川高校「心豊かなたくましく育つ我が子を支え隊」と題し、それぞれ事例発表を行いました。

波崎高校・石薬師高校は、アンケートやスマホ講演会・勉強会を通して、保護者がスマホ・SNSの功罪をよく理解し、指導者となる必要があること、金沢市立工業高校・西田川高校は、「学校・家庭・地域」が三位一体となり生徒を育む必要があること、その為には常日頃からお互いできることを協力し合うことの大切さを発表されました。

佐賀県立太良高校は「HOTSクルールの挑戦」と題し、通学指導やボランティアへの参加。そして文化祭でのカレーサービスや冬の豚汁会の運営などの発表でした。研究協議ではPTAの参加率を上げる取り組み等が話されました。指導助言で、放送大学の岩永先生と千葉大学の滝本先生から四校の活動に対する褒めの言葉と、コミュニケーションや感謝というキーワードをいただき終了しました。



第四分科会報告

千葉県立鎌ヶ谷西高等学校総務部長
松本隆文

第四分科会は「家庭教育とPTA」再発見！愛 多様化する情報社会における青少年の健全育成」をテーマに、茨城県立波崎高校「スマートフォン利用のトラブル防止の取り組み」、三重県立石

助言者の中央学院大学の譚先生からは「子どもにスマホを与えるからには、親の責任でフィルタリング等の規制が必要」であること、淑徳大学の山西先生からは「PTA活動には学校教育の『特別活動』同等の教育効果がある。これからは一層地域を巻き込んだ活動が重要になる。」とのお話がありました。

特別第一分科会報告

千葉県立流山おおたかの森高等学校
PTA会長 **榎本 彰**

特別第一分科会はメインテーマが「学校の危機管理とPTA」サブテーマが「生徒指導上の諸課題解決のために」ということで、アパホテルを会場として行いました。記念講演として、千葉科学大学上北彰教授に行って頂き、その後パネルディスカッション形式の討論会へと移りました。

パネルディスカッションでは、保護者パネリストとして保護者の方四名と日頃教壇に立ち、生徒の指導を下さっている高校教諭二名の先生に参加して頂きました。コーディネーターとして、千葉科学大学准教授の戸塚唯氏先生に討論会を進行して頂きました。

討論会では、上北先生の講演内容に基づき保護者や高校教諭の意見が活発に交わされました。一例として看護師をしている保護者より「人はミスをするものである」そして、そのミスを教訓として今後の対策をしていくことが大切だ」という意見がありましたが、そのことは医療の現場に限らず、どこ



とが言えるのではないのかと感じましたし、会場の参加者も同様ではなかったかと思えます。他にも多様な意見がパネリストより出され会場が一体となった活発な討論会となったと思います。

また、会終了後には参加者より上北先生の講演の資料を頂きたいという熱心な方もいらつしやいました。

私は特別第一分科会の班長として至らない点が多くあったかと思えますが、この会を支えて下さったスタッフはじめ、ご参加頂いた方々に感謝の意を表したいと思えます。

また、この会で得た様々なことを皆さんが今後の活動に活かして下さることを願います。

特別第二分科会報告

千葉県立千葉高等学校PTA会長
溝淵 順子

特別第二分科会は「情報機器と学校教育」高校生スマートフォン利用の状況と必要な対応について」をテーマとして、幕張メッセに隣接の「ホテルニューオータニ幕張」にて開催されました。

開会の言葉、全国理事の挨拶に続き、千葉大学教育学部教授であり副学部長の藤川大祐先生による「高校生のスマートフォン利用の現状と課題」と題した基調講演がありました。講演では、最新のデータや事例を元にした大変身近

に感じる内容で、先生の話に多くの方々もうなずいていました。

その後、NPO法人企業教育研究会事務局



長の市野敬介さんをコーディネーターに、パネリストには保護者代表として細淵真一さん、村上みどりさん、教員代表として與島宏さん、永野直さん、生徒代表として滝田哲之さん、岩瀬郁美さんの六名によるパネルディスカッションが行われました。それぞれの立場からのお話は大変興味深く、高校生を取り巻くスマートフォンの利用について、一層考えが深まっていく内容でした。更に、この分科会のために「twitter」のハッシュタグを用意して、参加者から意見や感想をリアルタイムで共有することで会場内が大いに盛り上がり、一体感がありました。今回の基調講演、パネルディスカッションを通して、スマートフォンにおける「情報モラル」を改めて考える良い機会となりました。情報機器を有効に活用することの大切さとともに、画面の先に「人」がいることを忘れてはいけないと感じました。大変有意義な分科会でした。



平成二十八年年度 総会報告

県高P連前副会長 平井敏一
(千葉県立千城台高等学校校長)

平成二十八年年度千葉県高等学校PTA連合会定期総会は、六月一日(水)県教育会館大ホールにおいて、県内加盟校一三四校(二八五名)が参加し開催されました。

湯井副会長の開会の言葉に始まり、大木会長の挨拶では、日ごろのPTA活動に関するお礼と記念講演テーマである「グローバル社会に求められる資質・能力について」に関連してオバマ大統領の広島訪問の際のスピーチを取り上げ、日本人の受容力・寛容さについて述べられました。

議事に先立ち、昨年度の関東地区PTA連合会大会茨城大会提案者並びに県高等学校PTA研究集会における提案者の五名に表彰状が、また各単Pから推薦のあった一六名に感謝状が、大木会長から贈呈されました。受賞者を代表して県立成東高等学校の長尾泰正様からご挨拶をいただきました。

続いて、来賓を代表して千葉県議会議長本間進様、県教育庁教育振興部長奥山慎一様、県高等学校長協会会長の鈴木政男様からご祝辞を頂戴し、森田健作知事からの祝電も披露されました。

議事は、榎本、田副会長が議長団に選出され、昨年度の事業及び会計決算が承認された後、今年度



の活動方針、事業計画、予算案が可決承認されました。役員改選では、別記掲載の新役員が承認され、八月に迫った第十六回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会のために会長は今年度も県立八千代高等学校の大木幸夫会長が再選され、新体制がスタートすることとなりました。

行政説明では、県教育庁教育振興部指導課指導主事横瀬正史様から、「本県の生徒指導の現状と課題について」、まず昨年の少年非行概況から、千葉県の少年の非行の概要について、次に環境生活部県民生活文化課が行っているネットパトロールの昨年の実施結果からネットトラブルについて、そして児童生徒の問題行動等の調査結果からいじめについての説明があり、最後に県の教育施策についての説明があり、湯井副会長の閉会の言葉で総会は終了しました。



総会終了後、文部科学省初等中等教育局教育課程国際教育推進室教科調査官の向後秀明氏による「グローバル社会に求められる資質・能力」と題して記念講演が行われました。

まず日本を取り巻く社会の劇的な変化の説明から入り、日本の教育は成功しているか、これから求められる人材とは、次期学習指導要領におけるアクティブラーニング、アクティブラーニングを視野に入れた指導の改善、大学入学者選抜の改善、子供たちの未来を拓く教育を展開するために、という七つの内容を分かりやすくユーモアたっぷりにお話しされ、笑いあり、考える場面ありの講演でした。

平成二十八年年度 役員と理事校

- 会長 大木 幸夫 / 八千代P
- 副会長 高橋 誠止 / 佐倉P
- 副会長 森山 理恵 / 佐倉P
- 副会長 宮原 政志 / 東金P



平成28年度 新役員の方皆さん

- 関東地区高P連表彰者
 - 千葉県立成東高等学校
 - ★ 個人
 - 前県連会長 小高 正之 (県立千葉中学校・千葉高等学校)
 - 前県連副会長 湯井 隆子 (県立流山おおたかの森高等学校)
 - 前県連監事 深山 康彦 (県立市原高等学校)
 - 前県連監事 山田 尚子 (県立国府台高等学校)
 - 前会長 浦田 徹 (県立千葉東高等学校)
 - 前会長 下神 華 (県立富里高等学校)
 - 前会長 吉田 洋人

- 副会長 岩瀬 俊彦 / 生浜 T
- 会計 新延美恵子 / 上総 P
- 監事 田邊 昭雄 / 国分 T
- 大崎 裕里 / 小金 P
- 浅野 照久 / 大原 T
- 顧問 小高 正之 / 前県連会長
- 高橋 孝宏 / 元県連会長
- 鈴木 政男 / 校長長協会
- 理事校 (千葉) 千葉商業・京葉工業
- (船橋) 船橋啓明・船橋芝山
- (市川) 分・行 徳
- (松戸) 小 金・松戸国際
- (東葛飾) 水・柏の葉
- (印旛) 倉・佐倉東
- (東総) 古・銚子
- (山武) 東 金・東金商業
- (長夷) 大 原・茂 原
- (安房) 安房拓心・長 狭
- (君津) 上 総・君津青葉
- (市原) 京 葉・市原緑

- ★ 個人
 - 前県連会長 小高 正之 (県立千葉中学校・千葉高等学校)
 - 前県連副会長 田 順光 (県立小見川高等学校)
- 全国高P連表彰者
 - ★ 個人
 - 前県連会長 小高 正之
 - ★ 団体
 - 千葉県立成東高等学校

表彰者

平成二十八年年度

受賞者の声

全国高P連表彰受賞にあたり

県高P連前会長 小高 正之
(県立千葉中学校 千葉高等学校)

全国高P連・関東高P連団体表彰受賞にあたり

成東高校前PTA会長 長尾 泰正
(千葉県立成東高等学校)



全国千葉大会表彰者
前県連会長小高正之氏(右)



関東地区大会山梨大会表彰者
前県連副会長湯井隆子氏(左)
前県連監事山田尚子氏(右)

第六十六回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会において、会長表彰をいただき、大変光栄に思います。私を支えてくれた全ての方に感謝します。

さて、私のPTA活動を振り返りますと中高一貫高に息子が入学した時から始まりました。それまで、PTAには全く興味もなく、活動の内容、目的さえも知りませんでした。もちろん全国大会があり、一万人の人が集まることも。PTAの活動に参加するようになり、子供たちの健全育成のために、家庭、学校、地域の連携の大切さも知りました。また、全国に同じ目的を持つ仲間が居ることも知りました。

PTA活動で学んだ事、体験したことは大きな糧になりました。本当にありがとうございました。

七月八日～九日に甲府市小瀬スポーツ公園武道館で行われた関東高P連大会、さらに八月二十五日～二十六日に、千葉市幕張メッセで行われた全国高P連大会において、優秀PTAとして団体表彰を受けました。

これは前年度の関東大会分科会で「進路指導とPTA」というテーマで提案発表したことが評価されたのですが、発表の機会を与えて下さった県P連事務局・役員の皆様のお陰と感謝しております。

また、これまで活動されてきた諸先輩方に感謝し、成東高校のPTA活動が益々活発になるよう微力ながらお手伝いして行きたいと思っております。併せて千葉県高P連の益々のご発展を心よりご祈念申し上げます。御礼の言葉とさせていただきます。

山梨大会に参加して

県高P連監事 大崎 裕 里
(千葉県立小金高等学校PTA会長)

関東高P連大会参加報告

今年の高P連関東大会は七月八日・九日の両日、伝統文化の息づく、山紫水明の地、山梨県の甲府市で開催されました。

「自立」をテーマに掲げ、一日目は全体会と記念講演が、二日目には分科会が行われ、関東地区七県から約三千人の参加者が集まりました。

全体会に先立ち北杜高校ギター部、甲府商業高校ソングリーダー部、そして県内の公私立三十三校の連盟で活動している山梨県高等学校応援連盟の応援が披露され、若いパワーに溢れる演技が会場を大いに盛り上げてくれました。

アトラクションの後、開会宣言、主催者あいさつ、そしてPTA活動において著しい功績が認められた個人と団体への表彰式と続き、千葉県からは七名一団体が表彰を受けました。

記念講演では昨年、ノーベル生理学医学賞を受賞された北里大学特別荣誉教授の大村智先生の「私の半生を振り返って」と題した講演をお聞きしました。
勉強はしなかったが家の手伝いと、山梨の自然の中で好奇心一杯に夢中で遊んだ子ども時代の事。一念発起してからは、教員とし

て就職されてから後も真摯に学びの姿勢を持ち、挑戦を続けた事。その際には失敗を恐れず常にオリジナリティを追求した事。

研究は必ず人の為に役立つものでなくてはならないと、人との繋がりを大切に考えてきた事など大変興味深く有意義な講演でした。大会二日目には五つの分科会に分かれてテーマ毎に発表が有りま

した。千葉県からは第三分科会で大原高校が「高校生への健全育成を進めるための地域活動について」という発表をされました。

大原高校は二年前の統合で新たなスタートを切ったそうですが、他校の様子やPTA活動についてはなかなかお話を聞く機会がありませんので、大変参考になりました。

日頃の活動の場所は違いますが、思いを同じくした皆さんと過ごす事の出来た時間を今後の活動にしっかりと役立てていきたいと思いました。



大原高校発表の様子

広報誌応募のお礼

第六十六回全国高等学校PTA連合会大会千葉大会、第六十二回関東地区高等学校PTA連合会大会山梨大会において単P広報誌の展示に際し六十二PTAから応募がありました。役員会等で審査し

た結果をご報告いたします。今後とも多数のご応募をお待ちしております。

●全国大会掲示単位PTA

・県立東金高等学校

・県立袖ヶ浦高等学校

●関東地区大会掲示単位PTA

・県立八千代高等学校

・県立検見川高等学校

・県立薬園台高等学校



▲関東地区大会
掲示のようす



◀全国大会
掲示のようす

大会スナツプ

実行委員の皆さん お手伝いスタッフの皆さん お疲れ様でした！



前日準備の様子



1 日目に配布した要項とお弁当



大会 1 日目司会

左：木更津高校 PTA 近藤直弘 氏
右：佐倉西高校 PTA 徳永由美子 氏

大会 2 日目司会

左：木更津高校 PTA 近藤直弘 氏
右：八千代高校 PTA 岡谷佳代 氏



編・集・後・記

平成二十四年度「第五十八回関東地区高等学校 PTA 連合会大会千葉大会」、平成二十六年「千葉高 P 連結成五十周年記念式典」、平成二十八年「第六十六回全国高等学校 PTA 連合会大会千葉大会」と隔年毎に大きな行事を実施して来ました。この間、偶然にも役員・理事をお願いした皆様にはとんでもない労力を提供していただくことになりました。本当にありがとうございました。

思えば、足かけ五年に渡る準備でありましたが、大会は前日準備を入れても三日間でした。本当に感動した千葉大会でありました。以降、しばらくは千葉県独自の県連事業の運営に専念することができると思っています。ありがとうございました。

千葉大会事務局長 佐々木 純

